

「特集 記録と再生の倫理学」(芸術批評誌「リア」四七号、リア制作室、二〇二一年一〇月)

名古屋・東海地方を拠点に現代美術批評を営む雑誌(二〇〇三年創刊)で、巻頭に組まれた特集。A5判で三〇八頁の短い七本と作家等のコラムからなるが、とくに歴史学の研究と深く関わるトピックを扱った二本を紹介する。

副田一穂「色眼鏡を外す―歴史資料のカラー化にまつわる倫理的問題について―」は、英国・帝国戦争博物館の依頼により同館のフィルムアーカイヴから制作した映画「They Shall Not Grow Old」(邦題:彼らはいきていた)(二〇一八年)、および渡邊英徳らによる戦災記録写真等を用いた「記憶の解凍」プロジェクトを例に、副題の論点をごく簡潔に論じる。両事例においては、モノクロ原資料のカラー化とその提示プロセスに問題が潜んでいる。基礎的なメタデータの欠落ないし軽視、原資料の検証(歴史学で言う史料批判)という観点の不在、カラー化の妥当性を「修復」過程に含めたり、「解凍」という比喩でかわしてしまうことなどにまともめられる。映像・写真が情動に訴える効果の大きさをゆえに、いつそう倫理的課題に立ち止まる必要性がある。

朝日美砂子「名古屋城 記録の歴史」は、明治維新後の名古屋城に関する記録資料の状況を整理し、外部に膨大に残されていることを指摘する。陸軍師団の所管から、本丸周辺が宮内省へと移管され、その離宮も昭和五年(一九三〇)に名古屋市へ下賜された。上質な資料は所有者の変更時に形成され、昭和二〇年五月の空襲焼失以前の姿を伝えるものとなった。こうした資料にもとづき再建された昭和天守閣について、その建築詳細は公的出版物とされず、さらに再建後の名古屋城の諸活動も記録されぬまま、解体される方向へと向かっている。また近年完成した本丸御殿についても、復元過程を詳細に記録した出版物の予定がないという。

この二本に共通するのは「なしくずし」(18頁)に進められる事態に対する、学術研究からみた批評的な視点で、それはアートの社会的機能に関わる立ち位置でもある。

(藤原重雄)

画像史料関係文献目録

氏名・タイトル	出典・号数・年月
谷川ゆき「海の見える杜美術館所蔵の厳島関連資料と「厳島に遊ぶ―描かれた魅惑の聖地―」展について」	『厳島研究』16 2020.3
高木叙子「織田信忠画像・徳川家康画像保存修理事業報告」	『安土城考古学博物館研究紀要』26・27 2020.3
山下立「近江笈谷石製文物集成(中間報告)」	『安土城考古学博物館研究紀要』26・27 2020.3
浜野真由美「和歌賛から見た島津家旧蔵「架鷹図屏風」の成立事情―近世初期の宮廷における寄合書の観点から―」	『日本研究』61 2020.11
角田勝久「光明皇后の〈楽毅論〉と王羲之の筆筈」	『奈良美術研究』22 2021.3
石井健「『東大寺献物帳』所載屏風の「葉帖角」について」	『奈良美術研究』22 2021.3
小池寧々「藤田美術館所蔵「玄奘三蔵絵」小考―詞書と絵画表現にみえる観音信仰に着目して―」	『美術史学』42 2021.3
杉本欣久「資料紹介 速水宗達写『竜宝山大徳寺境内并諸塔頭雜記』―大徳寺塔頭に関する絵画の筆者と諸情報―」	『美術史学』42 2021.3
比毛君男「研究ノート 中世常陸の石造物と常陸大宮市の様相(上)」	『常陸大宮市史研究』4 2021.3
小岩弘明「左武の人大槻磐溪―高島秋帆との邂逅の中で―」	『一関市博物館研究報告』24 2021.3
早川正司「千葉氏関連石造史料調査録(2)」	『研究紀要(千葉市立郷土博物館)』27 2021.3
入谷和也「高野山町石の種子について」	『密教文化研究所紀要』34 2021.3
木下浩良「新発見の細川満元宝篋印塔―細川氏と高野山高祖院―」	『密教文化研究所紀要』34 2021.3
荒木和憲編「共同研究 中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」	『国立歴史民俗博物館研究報告』223 2021.3
安永浩「「松浦古跡 付捕鯨記事」―草場佩川が見聞きした松浦地方の史話、名護屋城跡、小川島捕鯨―」	『研究紀要(佐賀県立名護屋城博物館)』27 2021.3
村松洋介「「朝鮮日本図説」からみた倭城・倭寨」	『研究紀要(佐賀県立名護屋城博物館)』27 2021.3
木戸雅寿「『天守指図』の謎―安土城天主をめぐる―」	『十六世紀史論叢』14 2021.3
荒井利之「正倉院所蔵の巻筆と書蹟」	『正倉院紀要』43 2021.3
杉原諒「千燈石仏―石に表現された阿弥陀来迎図像の基礎研究―」	『東京藝術大学美術学部論叢』17 2021.3
藤田励夫「安南日越外交文書の花押についての試論」	『東風西声』16 2021.3
岩瀬万寿美「十住心・十牛図の境涯に関する比較検討―道歌を媒介として―」	『仏教文化研究所紀要』40 2021.3
末吉武史「糸島市・住吉神社の釈迦十六善神図」	『研究紀要(福岡市博物館)』29 2021.3

活動抄録 (2022年1月1日～3月31日)

1月5～7日 京都大学附属図書館所蔵の正倉院宝物図関
係史料の撮影 (稲田) 【正倉院宝物図プロジェクト】

1月13日 センター・特殊史料部門共催オンライン木展
「菊池本家・新家史料について」で解説 (保谷) 【古写真
研究プロジェクト】

1月15日 NHKBS「フランスで新発見! 幕末ニッポン
の秘宝一将軍からの贈り物」放映への写真史料提供 【古
写真研究プロジェクト】

1月18日 早稲田大学図書館所蔵中御門家文書のうち
『太政官日誌』明治元年分などを調査 (箱石) 【戊辰戦争
期摺物画像研究プロジェクト】

1月26～28日 菊池本家・新家史料 (湯浅町分) の和歌
山移送を実施 (保谷) 【古写真研究プロジェクト】

1月28日 『画像史料解析センター通信』95号を発行 (杉
森・三島)

1月28～31日 寄託先の和歌山県立博物館にて菊池家史
料の追加撮影調査を実施 (保谷・谷、立石・吉岡) 【古
写真研究プロジェクト】

1月 古写真を含む両菊池家史料の整理・照合作業とデジ
タル撮影を実施 【古写真研究プロジェクト】

2月1日 京都府立京都学・歴史館にて「洛外社寺図巻」
を熟覧調査 (及川・西山・杉森哲) 【近世都市図解析プ
ロジェクト】

2月14日 『史料編纂掛備用写真画像図画類目録』(1909
年5月) などのデジタル画像を所蔵史料目録データベー
スより Web 公開 【近世都市図解析プロジェクト】

2月25日 平塚市中央図書館にて小川一真関係資料の調
査実施 (谷) 【古写真研究プロジェクト】

3月18～21日 和歌山県立博物館にて2度目の菊池家史
料の追加撮影調査を実施 (保谷・谷、榎原・立石・山本・
吉岡) 【古写真研究プロジェクト】

3月21日 和歌山県湯浅町教育委員会町民歴史講座「菊
池海荘と菊池 (垣内) 家史料」講演 (保谷) 【古写真研
究プロジェクト】

石巻市には、かつて石巻文化センターがありました。市民の集う文化発信の場でしたが、残念ながら2011年3月11日の東日本大震災によって被災、閉館となりました。この間、美術・民俗・考古などの所蔵資料の多くは被災史料レスキュー活動により救出、保管倉庫で大切に守られてきました。

金石文拓本プロジェクトでは石巻市教育委員会のご協力を得て、被災史料の中から1990年代に編纂された自治体史である『石巻の歴史』編纂資料を確認、拓本やプロウニー版ネガなど、板碑関係資料のデジタル化を進めています。

震災10年目となる昨春、あらたな複合文化施設として沿岸部より場所を移し、まるほんマキアートテラスが開館しました。その一角に11月3日、石巻市博物館がオープン、地域史研究の拠点として注目されています。中世の展示には、文献に加えて城館や板碑など多様な資料を駆使した工夫が満載され、板碑コーナーには、石巻文化センターからレスキューされた精巧なレプリカ数点も展示に活用されています。

今後、企画展「平山郁夫が描いた『奥の細道』」(5/20～6/26) ほかも開催予定とのことで、金石文拓本プロジェクトとの連携企画も構想中です。



東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター通信 第96号

2022年4月28日発行

編集 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター (編集担当: 菊地大樹・三島暁子)

発行 東京大学史料編纂所

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 電話:03-5841-8420 E-mail:gazo@hi.u-tokyo.ac.jp

印刷 ヨシダ印刷株式会社

©2022 Center for the Study of Visual Sources

Historiographical Institute, The University of Tokyo

ISSN 2435-0265

